

前回の議論から（宿題事項）

1. アニマルファミリー制度の自動継続について

アニマルファミリー会員の申込は1年毎となっており、期限切れに合わせて会員への更新申し込みの案内は行っているものの、申し込み忘れなどで途切れるケースがある。

このため、市民動物園会議において、申込時に自動継続を選択すると、毎年その都度申し込みせずとも同条件で継続され、寄付の納付書が送られてくるように仕組みを改めるべきとの意見があった。

検討の結果、会員申込時に「 次回（来年）以降も自動継続を希望する。」のチェックボックスに「レ」チェックを入れることにより、寄付の申し出があったこととみなし、納付書を発行する案を検討中である。早ければ、次期1月会員の募集チラシから変更する予定。

2. アニマルファミリー向けライブカメラサービスについて

動物園と来園者の関係性を変えること（あたかも家族のように動物と絆をつくる）を目的とした「アニマルファミリー制度」の会員メリットとして、対象動物の様子をライブカメラで動画確認できるシステムの導入が、市民動物園会議で提案されている。

このアイデアは、札幌市立大学が中心となって行った実証実験「弟路郎ファミリー」において、一定の来園誘発効果・ファミリー同士のコミュニケーション誘発効果が検証されている。

円山動物園では、まずこの実現に向けて、ウェブカメラの設置や園内の通信インフラの設備投資が必要と判断し、この事業のスポンサーとなってくれる企業を探すべく打診を行った。早速、大手通信会社に提案を行ったが、採用されなかったため、現在、総務省など国の補助事業を活用して事業化を行うことができないか、引き続き検討中。

なお、対象動物の飼育環境もまちまちであり、すべての動物に関して同条件でカメラを設置することが可能かどうか、また、夜間撮影可能な高感度カメラの要否についても継続検討としている。

3. カッコウの展示、野生復帰について

カッコウは、九州以北の原野、林縁、明るい林等に渡来する夏鳥（渡り鳥）で、托卵（たくらん）をする鳥で有名です。

托卵とは、オオヨシキリやホオジロの巣に卵を産みつけ、育児をオオヨシキリな

どに任せるといふ繁殖行動を言います。

したがって、飼育下でカッコウを自然繁殖させる為にはオオヨシキリやホオジロなどを混合飼育し、それらの鳥がまず繁殖（交尾・営巣・抱卵・育すう）することが必要となります。

カッコウの飼育については、まずその個体の確保がかなり難しく、たとえ環境省から捕獲許可を取得し、自然界で捕獲を試みたとしても、簡単にカッコウのみを捕獲できるものではありません。

また、他の動物園でも飼育しているところは殆ど無く、たとえ飼育していたとしても、傷病鳥獣として保護されたものがほとんどですから、野生に返すことが原則となります。野生復帰できず、飼育を継続する場合は飼養許可が必要となります。

このように、カッコウという鳥を手に入れることは大変に難しく、ましてや雄・雌をペアで繁殖用に入手するとなると尚更困難を伴います。

なお、自然界で野生の鳥類を捕獲することは、原則禁止されております。山階鳥類研究所がバンディング（足環標識装着調査）の為にカスミ網を使って小鳥を捕獲しますが、目的以外の鳥も多く捕まります。バンディング後は直ぐに放鳥いたしますが、捕獲は、小鳥にかなりのストレスを与えます。カスミ網の使用も許可が必要です。

以上のことから、カッコウを飼育展示し、繁殖を目指すことは、現実的には難しく、カッコウが棲めるような自然環境の保護と復元が優先であると考えます。

たとえ飼育下繁殖に成功し、自然に帰すことができたとしても、札幌圏の自然環境が生息に適していない状況であれば、冬には赤道付近まで渡り、また夏に渡来するときに札幌圏にまで渡来することは難しいといえます。

野幌の原始林内では、アライグマが増殖し、多くの野鳥の卵やヒナが被害に遭い、鳥類が営巣できなくなっています。現にアオサギのコロニーは引越しを余儀なくされています。また、アオサギの餌となるカエルが棲む湿地も野幌原始林内では、激減しています。このように身近なところで生物の多様性が失われています。

【参考】

野鳥などの野生動物は法律で保護されています。

「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（鳥獣保護法）」では、次の場合を除き、野鳥や野生動物を捕獲することを禁止しています。

- ・学術目的などで捕獲許可を得ている場合
- ・狩猟シーズンに狩猟場内で狩猟を許可された人が、狩猟対象とされた野鳥および野生動物を捕獲する場合
- ・農林業において、事業活動の際に捕獲することがやむをえない野鳥、鳥類の卵および野生動物のうち環境少令で定められたものを捕獲する場合

以上のとおり、無許可で野鳥を捕まえることは違法となります。

4. ビオトープの参加植樹イベントについて

(1) 記念植樹について

動物園の森の基本的なコンセプトの一つは、「現在ある遺伝資源を最大限に活用する」ということです。つまり、人工的に森を創るのではなく、今ある森が自然のままに育つ様子をじっくり見守ることをコンセプトとしています。そのため、この場所での記念植樹などは考えておりません。

一方で、森の中に本来生えていなかった「外来植物」が侵入してしまい、人が手を加えてあげないといけない部分もあります。「わたしの動物園」という観点から、少しでも多くの市民に愛着を持っていただくため、森の管理作業などに参加する「動物園の森ボランティア」を30名募集し、今年度から活動が始まっております。

なお、記念植樹に関しまして、札幌市では、大きな公園を造成する際に記念植樹イベントなどが各地で行われております。

(2) ホタルについて

今回造成した小さな流れの部分への、ホタルの定着については可能性がゼロではありません。ただし、自然度の高いビオトープであるため、外部からのホタルおよびホタルのエサとなる生き物の人工的な導入は考えておりません。数年後、ホタルがこの場所を選んで定着してくれると、夜の動物園などで大いに喜ばれることと思います。こちらにつきましても、自然の回復力や変化の状況について、専門家とともに長期的に調査を行い、判断していくこととなります。

5. 入園時の演出について

入園時の演出としまして、正門から入園した際、一番先に目に入る園内案内板に、動物をモチーフとしたパネルを設置することで準備を進めております。テレビの舞台装置等を手がけておられる方がボランティアでパネル設置をしてくださる予定です。人気のツインズやユキヒョウ、レッサーパンダ等も出迎えてくれる楽しいパネルでございます。今後も各門の整備等に合せて順次検討してまいりたいと考えております。